

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	SIGMA TOUR		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル	
RG	2.470	△RG	0.047	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

テストボール：SIGMA TOUR

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

比較対照ボール：PRIMAL

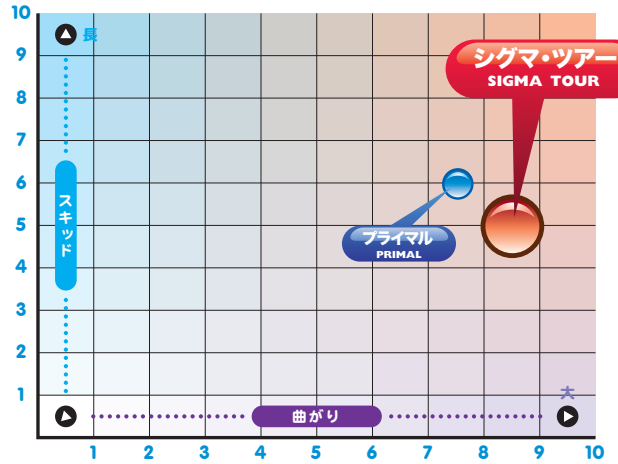
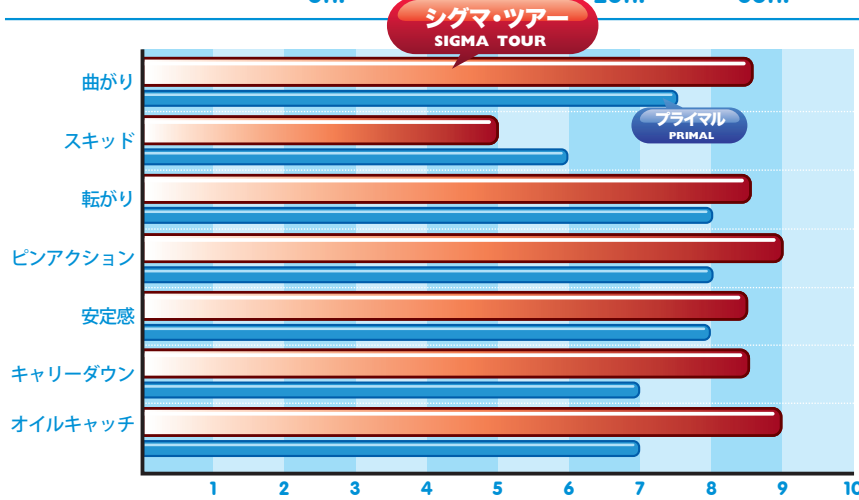
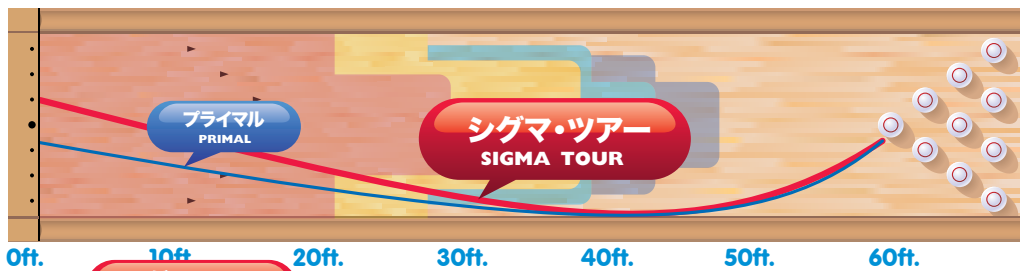
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤



ボールの評価

今回も行われた”Bowl EXPO 2011”で多くのメーカーが出展する中、一際注目度の高かったMOTIV社のブース。その多くの関心と注目は、特有のロゴの”ネオマーク”を筆頭にMOTIV社が導き出したボールリアクションであり、完成度の高いパフォーマンスでした。このSIGMAは、日本で高い評価を得たSR-2のネジレ感のある”Sigma コア”を採用し、非常に粘り感のある新開発の”ATOMIX Reactive”で包まれています。

なんとと言ってもこのSIGMAの特筆すべきは新開発のATOMIX Reactiveでしょう。投球する前から触った感じだけで「粘り感とウエット感」を感じたカバーストックは、キャッチを感じさせながらクリーンなスキッドを保ち、バックエンドで強烈にSigma コアを捻じらせます。私の中では今まで発売されたMOTIV社のどのボールよりも捻じれる感じを得られ、且つ明確に向きの変り方を感じるボールはこのSIGMAが最大だと思います。

またこのSIGMAは、他社メーカーのキャッチ系HI-パフォーマンスボールでキャリーダウンを感じる同等のラインでキャリーダウンを感じさせない、しっかりと曲りを得られました。

前回発売されたrapter同様、今やMOTIV社のカバーストックは他社HI-パフォーマンスボールと同等かそれ以上に思えるほどオイル上でのパフォーマンスとピンアクションが飛躍的に向上しています。Bowl EXPOでの注目度の高さも今回私がMOTIV社に感じたことと同じことなのかもしれません。

皆様が感じているMOTIV社のイメージを一変させる、今回初めてお使いになる方も、また寝強いMOTIVファンの方にもきっと納得のいくパフォーマンスを味わえることでしょう。

特記事項

思っている以上のキャッチ感と、捻じれて向きを変える爽快なリアクション。MOTIV社の技術革新と他社とも見劣りのしない性能をその手で是非お試しください。